

科目6

精神保健福祉の相談支援

講義7-2

ピアサポーター等との協働

団体(当事者、家族、ボランティア等)育成・支援

○ 団体の育成・支援

- 当事者会、家族会、断酒会、AA等の既存団体
→定例会等への参加、新たな参加者をつなぐ
- 組織化を意識した当事者交流会、家族学習会の企画等
- 当事者や家族の居場所を確保

○ ピアサポーターの養成

- 保健所と市町村が協働して「養成講座」を実施
- ピアサポーターの候補者を日頃の活動で把握しておく
- 養成後の活動の場づくり

○ 精神保健福祉ボランティアの養成

- 社会福祉協議会等との共催で「養成講座」を実施
- 修了者を組織化しグループの立ち上げ

ピアサポートという概念について

- 起源は学校教育の先輩が後輩の世話をする形態
- ピア(peer)＝「仲間」「対等」「同輩」
- ピアサポート＝「仲間同士の支え合いの営みのすべて」
- 呼称として「ピアサポーター」「ピアスタッフ」「当事者スタッフ」「メンバースタッフ」「コンシューマースタッフ」などがある
- フォーマルもインフォーマルもある
- 個別の相談支援があれば、グループのファシリテーションも行う

ピアサポーターの概念的背景となる系譜と理論基盤の整理

概念系譜	1)セルフヘルプ、ピアサポート	2)権利擁護	3)就労、働く
理論基盤	経験的知識、ヘルパーセラピー原理	エンパワメント	ストレングス
	リカバリー		

ピアサポーターがもたらす変化の可能性

- 1 利用者の変化
- 2 サービスの変化
- 3 ピアサポーター自身の変化
- 4 職員(専門職)の変化
- 5 機関等組織文化の変化
- 6 社会の変化

相談支援の目標は「リカバリー」

リカバリー

社会的

住居、就労、教育、
社会ネットワークなどの機会の拡大

パーソナル

本人が尊厳をもって、
目指した人生を歩む過程

臨床的

症状や病気自体の改善

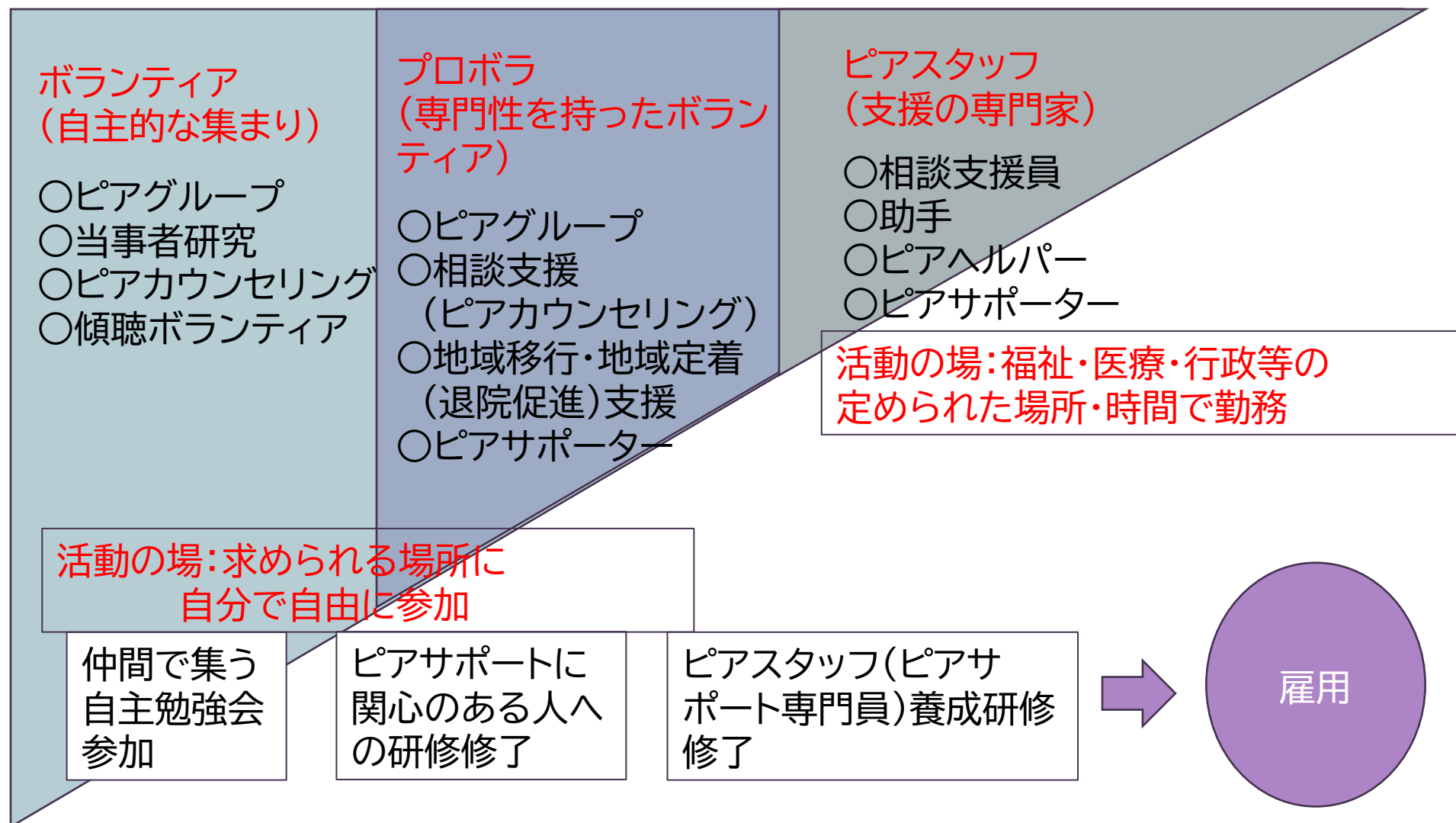
本人の実感

* パーソナルリカバリーは社会的、臨床的リカバリーとの関連はあるものの、必ずしもそれらの評価とは一致しない

支援者の価値観だけで判断せず

本人がどう感じているかを大切にする

ピアサポーターの立場・役割の種類



団体(当事者、家族、ボランティア等)との協働

- 当事者・家族・ピアサポーターとの協働
 - ・ 当事者会、家族会の例会へ共に参加
 - ・ ピアサポーターによる相談活動、啓発、住民との相互交流
 - ・ 同じ障害や悩みのあるケースに同行訪問してもらう
- 「障害福祉計画」策定への参画
 - ・ 精神障害者団体や家族会との意見交換
 - ・ 障害者本人の計画策定への参画を図り、市民協働による計画策定
- 市民活動との協働
 - ・ 行政が事業を計画する時に計画段階から参画してもらう

講義7－2 まとめ

- ピアサポーター・精神障害のある人、その家族と協働するためには、それらの団体を育成・支援するという視点が重要である。
- ピアサポーター≠当事者であり、ピアとして様々な支援(サポート)を提供する担い手のことである。また、リカバリーの概念が理論的基盤となっている。
- ピアサポーター等とは多くの場面で協働の可能性はあるが、個人によって活動範囲の意向や習得している支援スキル等は異なるので、協働する際には確認が必要である。

ご視聴ありがとうございました。

続いて、【講義7-3】

当事者及び家族等との協働事例
の動画をご覧ください。